



市川敏子さん・市川淳志さん

保谷町在住／共に40歳代

りました。街や公園、飲みにも！」と敏子さん。「自営業なので常に仕事が頭から離れない。休日は一人のための休日と、はっきりわかるように時間を使いたいんです。場所を変えるのが仕事との切り替えには一番です。おやじも12月31日には必ずスキーに連れて行つてくれましたが、同じ思いだつたのでしょうね」お互いの仕事が理解でき共に働き、遊ぶ二人です。

大事にしていること

「小学校の頃から休みの日には仕事に借り出されることがよくあり、友だちと遊びたくて逃げ帰つたこともありましたが、中学生の時には学校の掲示板を作るまでになつてました」

親から引き継ぎ、今は成人した長男とも一緒に携わる内装の仕事に、誇りと悦びを感じている淳志さんです。

子どもたちの未来に

「自分は多忙で家の中の事を考へる余裕もない中、彼女はよ

くやつてくれます。家庭を明るくしてくれてとても感謝しています」

「自分が楽しくて、つい優先するので家事が手ぬきになつてきたみたい。でも食を大事に考える母に習つて、食事はきちんと作るよう心がけています。毎日5人分のお弁当は、11品目が日安です」

「家事の大半は早く帰る私が。でも休日には彼が洗濯したりしています」家事分担は自然体に。

共に働き変わったこと

「休日は一人で出かけることが多いな

族。子育てに追われる専業主婦だった敏子さんが、家業に参加したのは30歳の時。「まだ先でいいよ」と義父母は言ってくれたけれど、一人で子どもたちの保育園への入所を決めました。私の人生の転機でした」と敏子さん。「最初は電話番や見積書の清書など、ほんの手伝い程度の仕事」が、経験と知識を積み重ねて、今では夫の淳志さんと仕事を分担しあつての多忙な毎日です。

「主婦の生活感覚でアドバイスをくれてとても助かつてます。器用な人で、今では彼女なしには考えられませんね」と淳志さん。「経営面を重視する彼と、お客の要望を第一に考える私はよくぶつかりますよ。対等にね」と笑う敏子さん。一人二脚は快調です。

淳志さんの帰宅は10時を過ぎるのが普通で、子どもたちと接する時間はほとんどない。「でも彼は常に子どもとかかわりません」お二人の言葉には実践に裏打ちされた説得力があ

たいと思つてます。父親として逃げないで、相談にはきちんと応えてくれて、子どもたちはお父さん大好きなんです。私は父親と子どもとのパイプ役として、互いの気持ちを伝えるなど心がけています」

お互いに感謝を

「結婚して25年。彼は常に義父母と私

間に立つバリアーになつてくれました。実家にも同様です。家庭のことは彼との相談だけで決められ感謝しています。仕事をよ

くし、天職と言う彼をスゴイ人と思つてます。今では一番尊敬する人なんです」

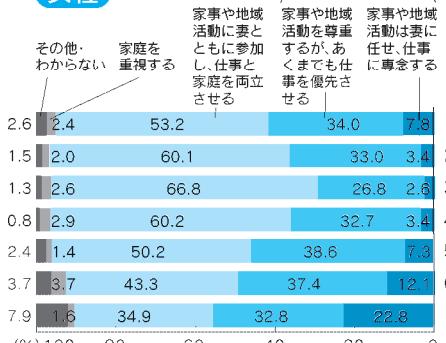
男性

敏子さん30歳の「人生の転機」は家業と家庭にとうても絶好の転機となつたようです。

力を合わせ、心を合わせて築いてきたお二人の歴史が、気負わないお話をから伝わつてきました。

仕事と家庭における男性の望ましい生き方

女性



【備考】1. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査－男性のライフスタイルを中心に－」(平成12年)より作成。
2.「家庭を重視する」は「どちらかといえば、仕事よりも、家庭や地域活動などを優先させる」及び「仕事は妻に任せ、家事や地域活動に専念する」の合計である。

【平成15年版】男女共同参画白書より